

## ○熊野地区上下水道事業に関するタウンミーティング議事録

日 時：令和7年10月18日（土）

午前10時～11時30分

場 所：富南会館

出席者：34人

### 【上下水道事業管理者からの説明】

#### 【意見交換会】

・最近、水道水にPFAS（ピーファス）が含まれているという話を聞く。水質検査の現状について説明いただきたい。

（上下水道局理事）

流杉浄水場では令和2年度から水道水中の有機フッ素化合物（PFOS及びPFOA）検査を開始しており、暫定目標値（50ng/L）を全て下回っています。富山市のホームページでは、水質検査の結果を公表しておりますので、ご覧いただければと思います。

・他県において、外資に水道事業の権利を売り渡しているところがあると聞いているが、今後、富山市においてもそのような可能性はあるのか。

（上下水道事業管理者）

そのようなことは全く考えていません。

・水道管や下水道管は、整備から50年以上経過していても問題ないのか。

（上下水道局理事）

水道管の法定耐用年数は40年、下水道管は50年ですが、耐用年数を超過すればただちに使用できなくなるわけではありません。ただし、耐用年数を超過したものは異常をきたす可能性が高くなるため、計画的な管路の更新に努めています。

・国からの補助金や支払った下水道使用料の使い道について教えてほしい。

（上下水道事業管理者）

下水道の場合、管路の更新などに対し、国の補助（補助率1/2）があります。

今年、国は今後5年間の国土強靱化計画を策定し、現行計画では事業規模15兆円の上下水道、道路、橋梁などの社会インフラの整備に、20兆円が必要だと上積みをしています。富山市として、下水道管の整備を進めるうえでも、毎年国に対して要望していますので、事業費に見合う補助金が見られるよう今後も努力してまいります。

また、利用者の皆さんからいただいた下水道使用料は、その6割を管路の更新や耐震化などの施設整備に使用しており、残りの4割を、各家庭から排出された汚水を汚水処理場へ運んだり、汚水を処理するためなどの費用に充てています。

・今後、人口減少や物価高騰が更に進み、下水道使用料だけでまかなっていくことは難しいと思うが、どのように考えているのか。

（上下水道事業管理者）

今回は今後4年間の投資計画に基づく財政シミュレーションを基に、下水道使用料の改定を行うこととしましたが、今後も人口減少が続く中であって、今回と同様に値上げで対応し続けることはなかなか難しいのではないかと考えています。

したがって、人口減少が長期にわたって続くことを前提にした上下水道インフラ整備のあり方を検討していく時機に来ているものと考えております。例えば、昨年

1月の能登半島地震の被災地では、地震によって使用不能となった下水道管を更新するのではなく、各家庭に合併処理浄化槽を設置して汚水进行处理する方式に転換を図っています。

このような事例は、被災地だけでなく、人口減少が進む地域にも当てはまることだと考えています。

いずれにしても、利用者である市民の皆さんと一緒に、将来に向けて上下水道事業のあるべき姿を今後考えていきたいと思います。

※発言の一部を整理して掲載しています。（上下水道局経営管理課）